

第1回 学校の在り方検討委員会

木津川市が目指す教育の方向性

令和3年8月20日
木津川市教育委員会

この先10年を見据える

〈急激に変化する時代を踏まえる〉

- 社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0時代」の到来
- 新型コロナウイルス感染拡大など先行き不透明な「予測困難な時代」



受け身ではなく変化を前向きに受け止め、社会・人生・生活を、人間ならではの感性を働かせてより豊かにする必要性

育むべき資質・能力

文章を正確に理解する読解力

自分で考え、表現する力

対話や協働を通じて新しい解や納得解を生み出す力

Well-beingの理念の実現

児童生徒一人ひとりが、**自分のよさや可能性を認識**するとともに、**あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう**にする。

体力の向上
健康の確保

豊かな情操
規範意識
公共の精神

自他の生命の尊重・他者への思いやり

自己肯定感・
自己有用感

人間関係を築く力

困難を乗り越えものごとを成し遂げる力

新学習指導要領の着実な実施

学習指導要領改訂の考え方

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む

「社会に開かれた教育課程」の実現

各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共」の
新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的
的に示す

学習内容の削減は行わない※

どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・
ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得など、新しい時代に求められる資質・能力を育成
知識の量を削減せず、質の高い理解を図るために
学習過程の質的改善

主体的な学び
対話的な学び
深い学び

※高校教育については、些末な事実的知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題になっており、
そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革等を進める。

木津川市教育振興基本計画

平成26年

今後10年を見通し前期計画策定

中間見直し

平成31年

後期計画策定（令和5年度まで）

<基本理念>

生きる力をはぐくみ “新しい時代を拓く” きづがわっ子”を目指して

<目指す子ども像>

共に「学び」「喜び」「成長し」未来を力強く生きる子ども

重点目標

質の高い学力

豊かな心
規範意識

健やかな体

個性・能力の伸長
社会の形成者

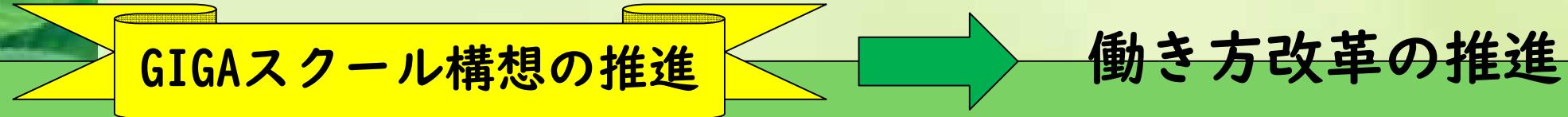
社会の変化に対応
未来を生きる力

魅力ある学校

地域の力を
活かす

郷土を愛する心

個別最適な学びと協働的な学び



① 個別最適化された知識・技能の定着

- 個人の課題や理解度、到達度に応じた問題を解いたり必要な学び直しをしたりする学習の実現を目指す。

② 効果的な協働学習

- 考えや回答の即時共有、他者との対話を通じた創造的な活動と協働的な学習の実現を目指す。

デジタル
ドリルの導入

教職員研修

一人一台タブレット
と電子黒板等の活用

学校教育ICT化支援チーム（市教委）

木津川市情報教育研究会

市GIGAリーダー会（各校1名・情報共有・実践交流）

9年間を見通した新しい時代の義務教育

多様な他者と協働
した探究的な学び

個別最適な学び

教職員の資質・
能力の向上

保幼小連携



9年間を見通した
教育課程

インクルーシブ
教育の推進

I C T 活用
G I G A スクール

学校施設設備の
整備

地域連携